

2023年度 学校関係者評価委員会

開催日時：2023年6月26日（月） 16：30～18：00

場 所：宮城文化服装専門学校 7F北教室

委 員：馬淵 佑子 氏（馬淵株式会社）
小野 義紀 氏（オズファインクロス）

参加者：守末 紀生（宮城文化服装専門学校 校長）
神長 学（宮城文化服装専門学校 副校長）
増子 佳世（宮城文化服装専門学校 教務主任）
飯岡 昌司（宮城文化服装専門学校 事務長）

- (1) . 自己評価委員会にて評価報告書を作成
- (2) . 学校関係者評価委員において自己評価の内容を検証し、評価報告の答申を頂く。
- (3) . (2) の内容をまとめたものをホームページに掲載することにより公開。

主な質問・意見と対応

- ・ 教員数について、先生方の評価は低いが生徒の評価は高い。何か理由があるのか。
→ 生徒の場合は常勤職員と非常勤職員に差や違いを感じていない。また、非常勤講師の高齢化を考えると新しい若い講師の採用の検討も必要と感じている事から評価に違いがあると思います。
- ・ 生徒の評価を見ると、授業にはある程度の満足感があるのかなと思う。
- ・ AO入学について詳細が知りたい。
→ 現在入学生半数以上がAO入学での応募となっています。メリットとしては早く進路が決まる、入学金が安くなるといった理由があると思います。しかし、早く進路が決まる事に関しては高校側としては望ましくないという意見もあります。
- ・ 「保護者と適切に連携しているか」の項目が若干低いが生理由は何か。
→ 基本的に問題の無い生徒の保護者に連絡する事はありません。逆に遅刻や欠席が多い生徒や問題がある生徒に関しては保護者に随時連絡を取っています。よって保護者全体となると連携は低いと言わざるを得ません。
- ・ 「退学率の低減が図られているか」の部分の評価が低いのは。何か足りないのか少し気になる。
→ 退学してしまう生徒は1年生の前半に集中するので、生徒にはイメージとして一気にやめたようなイメージがついてしまいます。逆に2年生ではほとんど退学者は出ないのでそのようなイメージにはなっていません。
- ・ 前半に辞めてしまう生徒が多いのであれば、前半の授業内容を変えてみてはどうか。最初から詰め込みすぎてしまうと大変だと思ってしまうのかもしれない。
→ 最初は基礎の連続ということで面白みに欠ける部分があり、大変と思うことがあるかもしれません。

夢を持って楽しめる部分を増やしたいと思います。

- 学生の中にも理想や思い込みがあると思う。それを広げてあげてはどうか。色々なものを提供してあげるのには良いと思う。わからないという人が多いので、まずは最初に興味を持ってもらうのがよい。
- 今の学生は人間関係が脆弱なのではないか。数名でコミュニケーションを上手く図れるオリエンテーションのようなものをしてはどうか。例えばビジュアルで数種類のファッションショーを流す。それを好きな人でわかる。その共通認識でコミュニケーションをとってみてはどうか。
→貴重なご意見ありがとうございます。その手法を取り入れたいと思います。
- 新卒を見ていると、とにかく安い服を求める傾向があり、ユニクロすら高いと言う。リメイクした時の素晴らしさ等を学べば興味を持ってもらえるのかもしれない。またそうすることによって逆に反発する意見が出て、そこから売りたいや作りたいに進めば良いと思う。まずは希望を持つのが良いと思う。
→基礎も大事だが最初から詰め込みすぎず、希望・興味を持つ内容を入れていきます。
- 最初にミシンの授業があると思うが、こんなことをやりたいと思わなかったという人もいる。逆に作って見たことでワクワクしたという人もいる。一概にどっちも否定できない。最初の導入が大事。
→現在よりもっと興味を持つことにも重点を置きたいと思います。
- 服を買って分解させるのはどうか。安い服でよい。どのようになっているか理解できるし、逆に元に戻すのにも技術が必要なので気づくことが多い。
→非常に面白いと思う。ぜひ授業に取り入れたい。